

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 保健体育部会

テーマ 『生徒一人ひとりが運動の楽しさや喜びを味わえる授業づくり』
～ベースボール型の簡易ゲームをきっかけとして～

提案概要

研究主題にあるように、ベースボール型の種目を経験していない生徒にとっても、「楽しさや喜びを味わうことができる授業づくり」の実践を報告した。その中で生徒の実態に合わせてルールを簡単にした様々な簡易型ゲームを取り入れたり、道具の工夫をしたりするなど「ベースボール型に苦手意識をもつ生徒」に興味をもたせて、全員がルールを理解してゲームを楽しむことができる授業を実践した。アンケート結果からも生徒の興味が授業後に増していたことがわかった。

質疑概要

提案についての質問は特になかったが、グループ協議の中で出された「ベースボール型の男女共修の難しさ」への改善点への質問があった。男女で一緒に行うことでルールの理解がされる場面があってもよいが、男子がストレスを感じ始めた頃が男女分けたチームにしての活動にするタイミングではないかという意見があった。

研究協議概要

研究協議を4人一組のグループで2本の柱で行った。

協議①『ベースボール型の授業をする中で自分が感じている課題、改善策』

グループによって様々な課題が出たが、分類していくと次のものに分けられる。

- ・ルールを理解させるのが難しいこと
- ・技術の習得に時間がかかること
- ・評価方法をどのようにするのか
- ・男女共修の難しさ
- ・運動量の確保が難しいこと
- ・安全面のこと

それぞれに改善策まで出してもらったが生徒の実態に合わせて様々な方法が出された。

協議②『球技の簡易型ゲームの例』

あらかじめ希望を取ったA～Fのグループに分かれていろいろな球技の簡易型ゲームの方法を考えた。球技の種類としてはサッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボールの4つである。簡易型のゲームにする良さとしては、ルールが共通で認識しやすい、苦手な生徒も参加しやすい、技能の習熟に合わせて行えるなどがあげられた。逆にできる生徒たちが不完全燃焼になってしまうなどの課題も出されたが、ゲームのルールや役割分担などで工夫できる部分があると考えられる。

各グループごとに様々な工夫があり、実際に授業で使えそうなものもたくさんあった。充実した内容で、発表時間が3分では足りなかったのではないかという意見もあった。

まとめ概要

- ・今回の提案では系統性、生徒の実態を踏まえた発表であった。また、実際の授業の中で生かせる実践例がたくさん出てきた。意味のある協議となった。
- ・学習指導要領P86の内容にチャレンジした提案であった。どうして簡易型ゲームを取り入れているのか、何がその球技の楽しさなのか。それを踏まえて系統的に組み立てていくことが大切である。資料の中に3年間を見通しての計画が触れられているので参考にすると良い。
- ・学習指導要領P83 球技の目標とともに、小学校から中学校に来た生徒が果たして全員身についた状態できているかどうかを確認すること。
- ・保健体育はできるできないがはっきりとしている教科。できない生徒にどう指導していいのか大切。できないこと

ができるようになる喜びは人生の中で大きなこと。意義のある教科である。自分たちで考えさせる簡易型ゲームも生徒の成長につながっていく。ただし、できる生徒が不満をもつ場合があるので、趣旨説明が必要である。

- 評価をどうするのかがはっきりと見えてこない。単元を通して4観点を評価していく必要がある。経験値が高い教員は線引きができるが若手はなかなか厳しいので、お互いに共有していけるとよい。
- 簡易ゲームを行った時に定期テストでは何を聞いていくのか。どういう内容でどういう言葉で聞くのか、技能の評価や何年生でやる授業としての前提で行うのか。などを聞いてみたかった。
- 先生方がもっているものを若い人に伝えていかなければならない。